

平成28年度 第1回北名古屋市男女共同参画審議会 結果概要

- 1 日時 平成28年7月6日(水)午後1時30分～午後3時15分
- 2 会場 西庁舎4階 大会議室東側
- 3 出席者 19人
委員12人(全員出席)、市長、総務部長、社会福祉課長、学校教育課長
事務局：市民活動推進課長以下3人
- 4 傍聴人 なし
- 5 議題など
 - (1) 市長あいさつ
 - (2) 自己紹介
 - (3) 平成28年度北名古屋市男女共同参画推進事業計画について
 - (4) 男女共同参画プラン実施計画平成27年度実施結果について
 - (5) 男女共同参画プラン実施計画平成28年度実施内容について
 - (6) 北名古屋市審議会等における男女の委員構成について
 - (7) 北名古屋市男女共同参画意識調査について

6 会議概要

- (1) 平成28年度北名古屋市男女共同参画推進事業計画について

○ 事務局から資料1に基づき説明。

○ 委員協議

<委員>

DV対策庁内連絡会議はどういったものか。

<事務局>

昨年度から実施しており、市民活動推進課、税務課、市民課、健康課、社会福祉課、児童課、家庭支援課、学校教育課の担当者間において、DV被害者の個人情報に加害者から守るために、DVへの理解と連絡調整を図る会議である。

今回は、7月14日に開催するが、DV被害者への対応方法、一般市民の意

識調査の検討をするとともに、次回から国保医療課も参加予定。

<委員>

DVの際、保護されるまでの流れが煩雑であるため、行政内で情報共有し、流れを円滑にする必要がある。ぜひ続けていってほしい。

(3) 男女共同参画プラン実施計画平成27年度実施結果及び男女共同参画プラン実施計画平成28年度実施内容について

○ 事務局から資料2及び資料3に基づき説明。

○ 委員協議

関係各課への事前質問について説明。

<委員>

男女混合名簿が増えていない状況がある、学校の判断に委ねているとのことだが、機会をとらえて働きかけてほしい。

<学校教育課長>

混合名簿名簿を使っている小学校は5校、中学校は1校。保育園では混合名簿を積極的に使用している。中学校になると、保健に関する授業や進路指導など、男女別で指導する機会が増えるため、男女別の名簿の方が間違いを防ぎ、使いやすい。(混合名簿を作っても)実際に使うかどうか、また、今後どうしていくのかは(現場の)各学校に委ねている。

<委員>

従来の男女別の名簿に慣れているため、現状維持でよいという傾向がある。健康診断など必要に応じて男女名簿を用い、それ以外では混合名簿を使うとよい。特に進路指導でも男女別ではなく混合名簿を使っていくとよい。男女平等であるという意識を教員から理解してほしい。

<学校教育課長>

確かに男女別名簿では、いつも男子が先に載っており、男女差意識が自然と

ついていってしまう。大人の先入観をかえていくことを参考にしていきたい。

<委員>

民生委員推薦会について、女性が一人もいないことについて、民生委員は女性も多いので、推薦会にも女性を一人は入れて欲しい。また、民生委員の男女割合を教えてほしい。

<社会福祉課長>

民生委員105名中、女性は61名、58%程度。民生委員推薦委員会は、社会福祉協議会会長など、あて職が占め、(元職に男性が多いため)女性登用が少なくなっている。今後、各会長や代表に女性の登用を進め、男女共同参画に貢献したい。

<委員>

LGBTについて市として周知についてどう取り組むのか伺いたい。また、アンケート調査でもLGBTについて触れてほしい。

<市民活動推進課長>

3月のとらいあぐるフェスタにてトランスジェンダーである結城愛さんをお招きし、講演会を実施した。LGBTは、人権問題として考えており、平成30年度から新しいプランに盛り込むことも委員さんの意見を聴きながら検討する。LGBTの理解の促進、周知については、今後も継続して行っていく。

<委員>

国の政策では曖昧にしか表現されていない。トランスジェンダーの子どもは小学生くらいから違和感を持ち、カミングアウトできるのは大学生くらいである。そのため、学校の先生にはLGBTについて理解していただき、子どもたちの心のケアなどに繋げて行って欲しい。先生方のノウハウも必要であるため、LGBTについての講習などに取り組んで欲しい。

<委員>

LGBTの人は「自分がおかしいのではないか」と悩んでしまうことがある。

そういった人に対する対策が必要ではないか。

<委員>

不登校の子どもの中にLGBTで悩んでいる可能性もある。いじめにあうなどの不安からカミングアウトできない。そのため、カミングアウトする前に、周りが気づくような知識や理解が必要。

<総務部長>

国は、LGBTについて理解をしていただくことも、男女共同参画の計画に位置づけている。日本は、LGBTというと「変わった人」というイメージがあるため、LGBTについて周知を図り、男女共同参画への理解を広げていくことが必要である。

<委員>

男女共同参画人材育成セミナー派遣後の人材活用について。

<市民活動推進課長>

セミナー修了生は21名であり、審議会などの委員等に登用されている人は15人。率にして、71.4%。現在、データベースにある方は18名で、内13名が委員等になられている。率にして、72.2%。市民活動推進課では、修了生について、庁内データベースで情報公開するとともに、課長会などでも修了生を活用していただくよう依頼している。

(4) 北名古屋市審議会等における男女の委員構成について

○ 事務局から資料4に基づき説明。

[補足説明]

資料は、35%未満の審議会等についての理由書の一覧表だが、女性登用率35%とは、北名古屋市女性登用促進要領に目標として掲げている数値である。

○ 委員協議

<委員>

委員の中で、同じ女性が他の委員も兼任されていることが多い。意見を広げるためにも、もっとほかの女性の登用を勧めていくとよいのではないか。

<総務部長>

そのとおりである。男性も同じ人が何回も登用される、兼任されることが多いため、男女とも幅広く、多くの人に委員になってもらいたい。

<委員>

委員会の内容によって任期など配慮が必要だが、ぜひ多くの人の登用を進めてください。

(5) 北名古屋市男女共同参画意識調査について

○ 事務局から資料5に基づき説明。

<委員>

各単語についての説明があるが、「ワーク・ライフ・バランス」なども載せてはどうか。

<事務局>

アンケートは、対象者別になっており、アンケートの種類により、専門用語の説明があるものとないものがあるので、LGBTを含め、それぞれのアンケートに説明を載せるようにする。

<委員>

中学生アンケートについて、保護者が誤解を招く表現を改めてほしい。例えば、問2(9)、(10)は先生についての質問で、先生から厳しく注意されることについて、「どちらともいえない」という表現ではなく、「(先生は) 男女性差関係なく対応している」などに変更できないか。前回のアンケートとの比較もあるため、難しいと思いますが検討してほしい。

<委員>

ほかの問いに対しても反映されるため、「どちらともいえない」を「男女差

はない」「男女関係ない」にしてはどうか。

<委員>

(選択肢に、「女子の方が多い」とか「男子の方が多い」があり、男女の人数の差という意味と、性別的な差、の二種類があるが、どう捉えるか。

<総務部長>

統一して、性差を意識しているかどうか、という設問にすればよいのではないかな。

<委員>

(1)から(8)は生徒が主体的に評価しているが、(9)、(10)は先生の行動を生徒が評価している。

<市民活動推進課長>

女子の方が多いか、男子の方が多いかを聞いているが、評価される先生の方にも、男の先生、女の先生があり、性別が異なるため、どの先生を評価するかによって意見が分かれ、難しい問題である。

<委員>

先生が仕事を指示するか、生徒同士で決めて動いているのか、などでもアンケート結果が変わってくる。

<委員>

中学生だと文章の理解が不十分なこともあるため、「女子/男子がやる仕事という雰囲気がある」など分かりやすく表現して欲しい。

<委員>

文章が「女子と男子のどちらが多いですか」となっているため、意識を問うということが分かりやすいよう「男子と女子のどちらが多いと感じていますか」という表現にしてはどうか。

<市民活動推進課長>

以上の意見を踏まえてアンケートの表現を考えていきたい。

他に意見のある方は今週中に市民活動推進課まで連絡をお願いしたい。

<閉会 午後3時15分>